

中学 2 年生 初めての海外研修 Philippines 語学研修 その②

東洋大学附属牛久中学校高等学校 校長 遠藤隆二

成田から Manila までの飛行時間は 4 時間 20 分、15 歳未満の中学生のための入国手続きに約 2 時間も費やし、日本との国情の違いに戸惑いを感じながら Manila で国内線に乗り換え、約 1 時間 10 分の飛行でイロイロ空港に到着した。空港からバスで「MK」Education に着いたのは午後 8 時を回っていた。朝 7 時 30 分集合から 12 時間も経過していたのに生徒たちは、元気そのもので夕食時の食欲も旺盛であった。



11/4 の夕食 飛行機の長旅にもめげず、食欲は旺盛、元気そのもの



11/5 の午前 レベル分けテストの様子 TOIEC テストそのものであった。

11/4 成田から Philippines 航空 431 便で Manila へ
Manila から IloIlo 「MK」Education へ

11/5～11/9 基本的な学習・・・Lesson の時間は 26 時間

11/5 の午前中はレベル分けテスト

11/6 の 15:00～17:00 は Club House で Activity

11/7 の同時間帯はプール Recreation など

11/8 の 15:00～19:00 は「SM」Mall で Shopping

11/9 の午後は CPU との文化交流

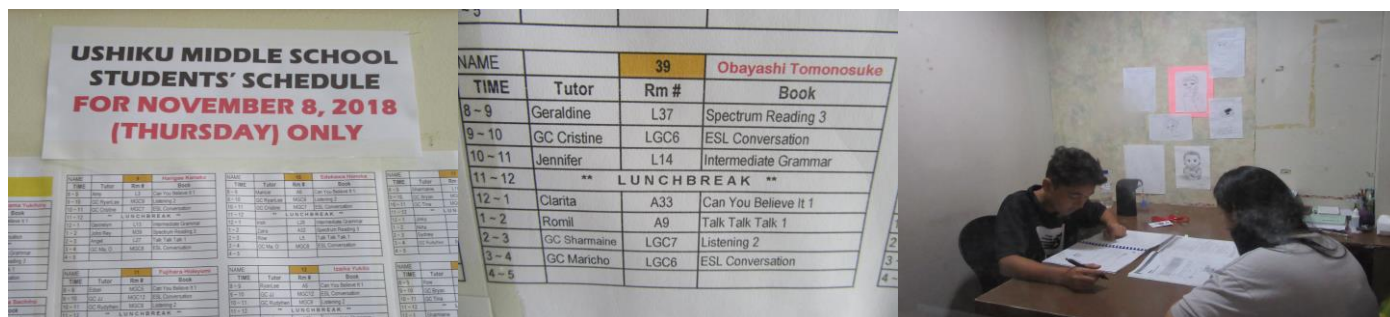


113年の歴史を持つCPU(Center Philippines University)の Campus

「MK」Education での学習は、11 月 5 日の午前中のレベル分けテスト、世界共通の TOIEC テスト（990 満点）から始まった。中学生には難しいと思われたが、生徒たちは懸命に取り組んでいた。テスト終了間近かに地震が発生し、市の規制で 15:00 まで建物内に入れなくなったため、午後は Recreation に切り替え、この日の午後の学習は次の日に振り替えられた。

11/6 からは、レベル分けテスト結果に基づいて作成された一人一人異なった毎日の学習 Schedule が事務室前の広場の柱に掲示された。生徒たちは、その掲示に従って指定された個人レッスン用の部屋に行き、指定された先生から特製のテキストを使って 1 日 3 回、個人レッスンを受ける。また、同じレベルの生徒たちがグループ（3～5 名）毎に指定された Group Lesson の部屋に行って、1 日 3 回、Group Lesson を受ける。

毎日、その日の個人の一日の学習 Schedule が掲示され、その掲示に従って、それぞれのレベルに応じた Group Lesson と Personal Lesson を主体的に繰り返す学習は生徒たちに好評であった。又夜の自習時間も概ね予習や復習を行っていて有効に活用されていた。これらの MK での学習の成果が Club House での Activity や Recreation、Shopping、CPU との文化交流などに活かされていた。生徒たちは自分の英語が現地 Philippines の人々に伝わった嬉しさを実感し、英語学習の大切さが身に染みたとする。これらの体験が今後の主体的な学習に繋がっていくものと期待している。



毎日、その日の個人の一日の学習 Schedule が掲示される 個人の一日（7時間）の学習 Schedule 例 個人レッスンの様子（1日3～4回）



Group Lesson と Personal Lesson を繰り返す学習スタイルは好評。Group 学習では笑顔が見られたが、個人学習ではあまり見られなかった。



クラブハウスでの Activity での集合の様子

食堂での self-service の様子

現地のスタッフに選択を頼んでいる様子



Activity での集合の様子 MK の玄関前

ストローを使って高さを競うゲームの様子

クラブハウスのプールで水遊びをする生徒たち



Philippines のバス・ジープ改良した「ジブニー」に乗って「SM」(大型商業施設)に向かい、グループごとに Shopping を楽しんだ。